

(様式2-6)

肝炎治療受給者証(非代償性肝硬変を除くインターフェロンフリー治療)の交付申請に係る診断書(再治療)

フリガナ		性別	生年月日(年齢)
患者氏名		男・女	年 月 日生 (満 歳)
住所	郵便番号 電話番号 ( )		
診断年月	年 月	前医 (あれば記載) 医療機関名 医師名	
過去の治療歴	該当する項目にチェックする。チェックした場合、これまでの治療内容について該当項目を○で囲む。 1. インターフェロン治療歴 <input type="checkbox"/> インターフェロン治療歴あり (チェックした場合、これまでの治療内容について該当項目を○で囲む) ア. ペグインターフェロン及びリバビリン併用療法(中止・再燃・無効) イ. ペグインターフェロン、リバビリン及びプロテアーゼ阻害剤(薬剤名: )3剤併用療法(中止・再燃・無効) ウ. 上記以外の治療 (具体的に記載: ) 2. インターフェロンフリー治療歴 <input type="checkbox"/> インターフェロンフリー治療歴あり。(薬剤名: )(中止・再燃・無効)		
検査所見	今回の治療開始前の所見を記入する。 1. C型肝炎ウイルスマーカー(検査日: 年 月 日) (1) HCV-RNA定量 (単位: 、測定法 ) (2) ウイルス型(該当する項目を○で囲む。) ア)セロタイプ(グループ)1、あるいはジェノタイプ1 イ)セロタイプ(グループ)2、あるいはジェノタイプ2 ウ)上記のいずれも該当しない(ジェノタイプ検査データがある場合は記載: ) 2. 血液検査(検査日: 年 月 日) AST _____ IU/l (施設の基準値: ~ ) ALT _____ IU/l (施設の基準値: ~ ) 血小板 _____ /μl (施設の基準値: ~ ) その他の血液検査所見(必要に応じて記載) [ ] 3. 画像診断及び肝生検などの所見(検査日: 年 月 日) (所見: ) 4. (肝硬変症の場合)Child-Pugh _____ 点 分類 A・B・C (該当する方を○で囲む。)		
診断	該当番号を○で囲む。 1. 慢性肝炎 (C型肝炎ウイルスによる。) 2. 代償性肝硬変 (C型肝炎ウイルスによる。) ※Child-Pugh分類Aに限る。		
肝がんの合併	肝がん 1. あり 2. なし		
治療内容	インターフェロンフリー治療 (薬剤名: ) 治療予定期間 週 ( 年 月 ~ 年 月)		
治療上の問題点			
上記のとおり、以前とは異なるインターフェロンフリー治療薬による再治療を行う必要があると診断します。 記載年月日 年 月 日	この診断書の記載には、次のいずれかに該当することが必要です。 該当する口欄にチェックを入れてください。 <input type="checkbox"/> 肝炎患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医である。 【専門医番号 _____】 <input type="checkbox"/> 他の日本肝臓学会肝臓専門医又はインターフェロン治療経験のある日本消化器病学会消化器専門医である。 ※インターフェロン治療の経験の有無(□あり・□なし) 【専門医番号 _____】 <input type="checkbox"/> 上記以外で県外の医療機関に在籍する医師であり、当該医療機関所在地の都道府県における診断書記載の要件を具備している者である。 <b>※ 注意事項</b> 上記のうち「日本消化器病学会消化器専門医」だけに該当する場合には、これまでにインターフェロン治療の経験があることが必要です。		
医療機関名及び所在地			
医師氏名			

(注)

1. 診断書の有効期間は、記載日から起算して3か月以内です。
2. 記載日前6か月以内(ただし、治療中の場合は治療開始時)の資料に基づいて記載してください。
3. 記入漏れのある場合は認定できないことがあるので、ご注意ください。
4. インターフェロンフリー治療歴のある場合、肝炎患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医を除き、様式2-9の添付が必要です。